

令和6年度 事業報告

はじめに

昨年は、元日に発生した能登半島の地震、夏の記録的な猛暑、台風の相次ぐ襲来などなど、全国各地で甚大な災害が発生しました。また、昨年暮れからは東北地方は大雪に見舞われたほか、海外ではロサンゼルスでの大規模な山林火災など、大変な被害が発生しました。これらは、地球温暖化による気候変動が原因ともいわれており、このような異常気象による災害を減少させるためにも、温室効果ガス吸収減対策として森林整備事業にしっかりと取り組んでいく必要があります。

昨年12月には、第3次の担い手3法に関する第2回目の一部改正が施行されました。主な改正は、資材価格が高騰した場合の変更協議の円滑化（誠実に応じることの義務化）、ICT活用による現場管理の効率化、現場技術者の技術者専任義務の合理化、猛暑日を考慮した工期設定と時間外労働規制を前提とした発注等々が進められることとなります。

このように建設業の担い手不足に関しましては、様々な国の施策が講じられてきていますが、現場では、作業員の高齢化が進むと同時に、働き方改革（時間外労働規制）に対する現場工事の軽労化や工事提出書類のスリム化も喫緊の課題となっております。特に森林土木工事の現場は山間奥地で現場条件が大変厳しい場所が多いことから早急な対策に取り組んでいく必要があります。

このため、労働環境を向上させて労働者が働きやすい環境をつくることが重要であり、山間奥地の厳しい施工条件下でも適正な利潤を確保する森林土木工事の発注や、生産性の向上を図り担い手を確保するための働き方改革などを推進し、魅力的な工事へ転換に林土連をはじめ関係機関と連携し取り組んでいきます。

令和6年度も、名古屋林業土木協会の全ての会員企業が、コンプライアンスを遵守し発注者との良好な関係を構築し、公共工事の品質確保、労働安全の確保、各種技術の研鑽、企業の社会貢献活動などを通じ、山村地域の振興、林業土木事業の促進に寄与することを目的として、理事会で承認され第58回定時総会で報告した事業計画に基づき、理事会はもとより、コンプライアンス委員会、安全・技術対策委員会、環境・社会貢献委員会及び青年部による組織的な企画・立案と実行を通じて、各支部、各会員が一体となって取り組んできましたので以下報告します。

1 「防災・減災、国土強靱化対策」の推進への協力

① 発注工事の適正な受注に向けた取組

国土強靱化対策の推進に伴い公共事業予算は各省庁で増加し、工事発注件数が増加する中、円滑な執行に向けて各発注機関からも協力要請があるなか、協会としては継続的な林業土木事業の重要性を認識し適切に受注していくこととしていますが、地域によっては技術者や労働力の不足により入札不調となる工事も発生しました。協会は、会員への応札を呼びかけとともに、事業を円滑に実施していくために発注情報の早期公表と資材価格高騰等に対する適切な変更協議など発注機関へ要望しました。また、会員が提出した改善要望事項に対し森林管理署等の担当者との意見交換会を開催し、課題の解決と受・発注者間のコミュニケーションを図るとともに改善困難な事項は合同委員会の中で森林管理局より回答を頂きました。今後も引き続き、それぞれの現場実態あった適正な設計積算など要望・意見交換を行い、発注者、受注者双方が共通の認識に立ち効果的・効率的な事業実施を目指して取り組んでいきます。

このほか、近年林道の維持予算確保が厳しくなっている中、過去の豪雨災害で被災した林道の仮復旧の状態事業を継続して実行している箇所を点検し、現場の実態を関係者等へ情報するとともに林道予算の確保に向け要望活動を行いました。

② 国有林防災ボランティア活動等

ア) 令和6年は、名古屋協会内の国有林においては幸い大規模な豪雨災害等の発生は見られず「国有林防災ボランティア協定」に基づく防災協力の要請はありませんでしたが、元日に発生した能登半島地震における緊急支援物資の搬送にかかる協力要請を受け延べ60名を越える会員が活動しました。

＜能登半島地震被災地支援における活動概要＞

活動日	活動概要	活動会員
1月5日	中部森林管理局との防災協定に基づき、支援物資の搬送要請を受け、集荷・搬送体制の構築と各支部においては会員から提供される資材の集荷	全支部約40名
1月6日	各森林管理署等の支援物資（ブルーシート54枚、大型土嚢100袋、土嚢袋2,020枚）を集荷するとともに、神岡、古川、久々野高山、荘川、小坂、岐阜の各支部会員提供分（ブルーシート506枚、大型土嚢350袋、土嚢袋550枚）とあわせ、7tトラック2台に積載して石川県庁へ搬送	神岡、古川、久々野高山、荘川、小坂、岐阜、約20名
1月10日	愛知森林管理事務所の支援物資（ブルーシート19枚、土嚢袋200枚）と、愛知支部会員企業の提供分（ブルーシート63枚、土嚢袋1,000枚、大型土嚢70袋）を、一時ストック場所の中津川市付知町へ搬送	愛知支部2名
2月29日	富山支部会員企業が提供した支援物資（ブルーシート300枚、土嚢袋1,000枚）をワゴン車に積載して石川県庁へ搬送	富山支部2名
3月25日	愛知森林管理事務所の支援物資（ブルーシート19枚、土嚢袋200枚：1/10集荷分）と、愛知、付知、坂下、中津川の各支部会員企業提供分（ブルーシート303枚、大型土嚢70袋、土嚢袋2,600枚、トレットバー600個）とをあわせ、7tトラックと乗用車に積載し石川県庁へ搬送	付知支部5名

【参考】同活動に対する中部森林管理局局長感謝状授賞（令和6年3月7日付け）

イ) 国有林防災ボランティア協定に基づく会員登録の更新に取り組みました。

③ 緊急応急工事対象者公募への対応

災害発生時に迅速な対応ができるよう、中部森林管理局における緊急応急工事対象者公募に対し、会員の積極的な応募を働きかけ48社が登録を行いました。

④ 中部防災推進ネットワークへの参加

南海トラフ地震など巨大自然災害が懸念される中、中部圏における「業界団体」間の共助を促進し、合わせて「ボランティア団体」「地縁組織」「行政組織」との協働を図り、広域的な災害対応の実現を目指すことを目的とし設立された中部防災推進ネットワークでの勉強会等に参加し防災対策の情報収集活動を行いました。

2 森林・林業社会貢献活動の取り組み

林業土木事業の活性化を通じた地域振興に向け、掲示板による事業のPRをはじめ、社会貢献活動の一環としての安全・安心な地域づくり及び国有林を地域が活用し地域振興に取り組むレクリエーションの森制度に協力するなど、山村地域の振興に向けた取り組みを実施しました。また、その取り組んだ活動内容は協会ホームページにより広報しました。

① 林業土木事業の活性化を通じた山村地域の振興

- ア) 掲示板によるPR 5回
- イ) 新聞紙面への広告 2回

② 森林空間を利用した事業へのボランティア活動

実施日	行事名等	実施場所	関係支部	参加者
5月30日 ～6月13日	国有林ゴミゼロ活動 (金華山、付知峡、卯の花街道、定光寺)	高山、岐阜、中 津川、瀬戸市	飛騨4、小坂、岐阜、 東濃3、愛知支部	208名
5月30日	定光寺自然休養林遊歩道整備	瀬戸市	愛知支部	10名
6月19日	宮の大イチイ遊歩道整備外	高山市	久々野高山支部	17名
6月27日	平湯大ネズコ歩道整備外	高山市	神岡支部	6名
7月17日	大白川「白水の森」整備外	高山市	荘川支部	12名
8月23日	岩村城趾・岩村国有林清掃外	恵那市	東濃3支部	27名
9月7日	白木峰登山道への林道整備外	飛騨市	古川支部	12名

9月10日	赤沼田天保林への道路整備外	下呂市	小坂支部	21名
10月15日	「川浦溪谷」周辺清掃作業	関市	岐阜支部	13名
11月5日	防風林（大沢野国有林）獣害対策	富山市	富山支部	22名
12月17日	古城山遊歩道整備	美濃市	岐阜支部	15名

【参考】

令和6年3月 森林・林業社会貢献活動感謝状授賞状況 <令和5年度における活動が対象>
 局長感謝状 団体部門：協会（3） 署長等感謝状 団体部門：協会（2）1支部（1）
 企業部門：5社（6） 企業部門：3社（4）

※（ ）は感謝状の全体数

3 技術向上への取り組み

5月23、24日、高山市の「高山市民文化会館」において、林業土木技術講習会を開催し、講師、スタッフ含め154名が参加しました。

11月22、23日には、令和6年度林土連技術現地研修会が広島市において開催され名古屋協会からは6名が参加しました。

各支部が実施する現地研修会では労働災害防止にかかる安全点検のほか新技術や現地の実態にあった工法等の検討を行いました。

<現場における技術向上等に向けた研修会等>

実施日	研修名等	実施場所	森林分野 CPD等	参加者
5月23,24日	林業土木技術講習会	高山市	CPD:14単位 CPDS:14ユニット	157名
6月24日	林野庁キャラバン	長野市	—	9名
7月23日	治山林道技術研修	恵那市	4単位	26名
7月30日	治山・林道技術研修	上市町	4単位	14名
8月22日	治山・林道技術研修	下呂市	4単位	18名
10月9日	治山・林道技術研修	高山市	4単位	29名
10月22日	治山・林道技術研修	関市	4単位	11名

4 労働災害の防止活動

各支部が実施する現地研修会では、労働基準監督署や森林管理署とも連携した合同安全パトロールを実施し労働災害防止と安全の確保を推進しました。

年度当初には、安全標語を募集し秀逸作品から”安全のぼり“を作成するなど安全活動意識の向上と啓蒙に取り組みました。また、労働災害情報の速やかな現場周知により安全意識の向上を図りました。

<安全パトロール等の実施状況>

実施日	研修名等	実施場所	関係支部	参加者
6月13日	緊急安全パトロール・安全会議	下呂市	小坂支部	12名
7月23日	安全パトロール&安全会議	恵那市	東濃3支部	23名
7月30日	安全パトロール&安全会議	魚津市	富山支部	16名
8月22日	安全パトロール&安全会議	下呂市	小坂支部	18名
10月9日	安全パトロール&安全会議	高山市	飛騨4支部	29名
10月22日	安全パトロール&安全会議	関市	岐阜支部	11名
11月28日	安全パトロール	中津川市	東濃3支部	16名
12月23日	安全パトロール	設楽町・豊橋市	愛知支部	12名



5 会員意見反映の取り組み<森林管理署等との意見交換会開催状況>

実施日	森林管理署等	実施場所	関係支部	参加者
3月5日	富山森林管理署	監督員と支部会員	富山支部	19名
2月22日	岐阜森林管理署	署幹部と支部会員	小坂支部	36名
6月19日	飛騨森林管理署	監督員と現場代理人	飛騨4支部	38名
12月23日	愛知森林管理事務所	関係職員と支部会員	愛知支部	12名

6 その他

カーボンニュートラル（CN）やグリーン転換（GX）、生物多様性（NP）、デジタル転換（DX）など、地方創生の実現に向けた森林吸収源対策の推進するため、会員企業が取り組む内容を紹介しました。

環境性能の高い重機類への更新 - (株)梅田組	廃棄文書、古紙の循環利用 - 付知土建(株)
森林吸収量認証制度Gクレジットの購入- 大山土木(株)	中小企業版 SBT 認証取得 - (株)長瀬土建
カーボンオフセット付き商品の購入-大山土木(株)	ネイチャーポジティブ宣言 - (株)長瀬土建
植林事業（森林保全活動）- 大山土木(株)	環境性能の高い車両・重機類の導入 - (株)長瀬土建
化石燃料の使用削減と電力削減 - 大山土木(株)	生態系保全活動への取組 - (株)長瀬土建
生態系保全、回復に資する取組み - 大山土木(株)	アナログ業務のデジタル化 - (株)長瀬土建
GX推進で会社競争力向上 - 大山土木(株)	多角的なドローンの活用 - (株)長瀬土建
再生可能エネルギーの活用促進 - 西濃建設(株)	チームビルディング管理システムの導入 - 安達建設(株)
ペーパーレス化への取組 - (事務局)	

※詳しい内容は協会ホームページ「CN、GX、NP、DXの取組」に掲載

7 協会運営

定時総会、理事会を基本とした運営に加え、安全・技術対策委員会、環境・社会貢献委員会、コンプライアンス委員会および青年部の各組織が連携し、組織的に取り組んできました。

<総会・理事会開催状況>

実施日	会議名	実施場所	内容等
1月9日	三役会議	長野市	協会運営等（中部局へ年始の挨拶）
2月14日	第1回理事会	名古屋市	総会議案書関係
3月12日	第58回定時総会	名古屋市	全会員59名（委任状5名）により提案議案可決。総会出席者は69名
5月12日	第2回理事会	長野市	林業土木技術研修会等関係 コンプライアンス委員会
9月12日	第3回理事会	富山市	技術現地研修会ほか
12月17日	第4回理事会	名古屋市	6年度決算見込み、7年度事業計画等

<安全・技術対策委員会、環境・社会貢献委員会関係>

実施日	会議名	実施場所	内容等
4月25日	第1回合同委員会	名古屋市	委員会活動方針等
12月17日	第2回合同委員会	名古屋市	改善要望事項について中部森林管理局担当官から回答及び意見交換ほか

<青年部関係>

実施日	会議名	実施場所	内容等
2月6日	令和6年度総会	名古屋市	活動方針等について全部員が賛同
4月25日	第1回役員会	名古屋市	青年部研修会について
5月23日	役員打合せ	高山市	青年部研修会実施内容について
7月26日	第2回役員会	名古屋市	研修会内容等の決定、確認
10月28日	三役会議	名古屋市	青年部研修会の運営打合せ
11月7日	青年部研修会	東京都	参議院議員会議において林土連、札幌協会青年会議含め37名が出席。著名人及び林野庁幹部による講話
11月29日	第4回役員会	富山市	令和7年度青年部総会議案書等について

5 コンプライアンス活動の取組

名古屋林業土木協会では、第48回定時総会(2014年)において発注者・受注者の立場で“よりよいパートナーを目指して”をキャッチフレーズとして取り組みことを決議し、現場技術者が共通の認識を持ち、互いの信頼関係の下、「現場のことは現場で解決する」といった気運を高めることを目的にコンプライアンスを重視しつつ現場レベルでの意見交換を行うなど適切な対応に取り組んできました。

しかし、令和2年に他の協会の林土連会員企業が関与する収賄事件が2年連続して発生したことを踏まえて、令和3年3月、新たに「コンプライアンス委員会」を設置して同様な事件が発生することがないようにヒヤリハットや疑義事案など不適切事案の未然防止に向け更なるコンプライアンス活動に取り組んできました。

昨年は、5月9日に第1回のコンプライアンス委員会を開催し、取組状況の報告と令和6年度の実施計画を決定するとともに、5月に開催した林業土木講習会において中部森林管理局 永瀬庄栄 森林整備課長から、12月に開催した合同委員会において中部森林管理局 井口真輝 次長から、それぞれ発注者綱紀保持対策に関する取り組みについて指導をいただきました。このほか、各支部で開催した森林管理署等との意見交換会において署等の幹部から発注者綱紀保持対策について指導(2/22 小坂・岐阜、3/5 富山、6/19 飛騨、12/23 愛知)をいただき、定期的に会員のコンプライアンス意識の向上に努めました。



令和3年4月1日

一般社団法人名古屋林業土木協会のSDGs宣言

会長 三尾 秀和

一般社団法人名古屋林業土木協会は、岐阜、愛知、富山管内の国有林内の林業土木に携わる会員の技術の向上、経営基盤の強化等に関する事業を行い、もって国土の保全及び地球環境の保全並びに林業土木事業の発展に寄与することを目的として活動している団体です。建設業としての林業土木は森林の保全インフラ整備や防災、更には環境、エネルギーといった人々の暮らしに大きく深くかわかりこれを担っている業界。まさにSDGsのあらゆる局面に関与しています。フォレストサポーターズ活動にも積極的に参加し、日々研鑽し、地域に必要とされる林業土木業界として活動します。

SDGsの考え方である、精神的な豊かさや価値観が合う生き方、共感社会になっていくという動きを理解して、我々協会員一人一人が本気でSDGsを行動につなげ、お客様や地域から信頼され、持続可能な地域社会の創造に貢献できるように尽力していきます。

一般社団法人名古屋林業土木協会は、SDGsを社会貢献の一つとして考えるのではなく『一致団結し確実な協会活動を行うこと=SDGsの目標達成』と考えています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

